

真庭市医師会報



目 次

◇病院移転	1	◇ただいま真庭	
◇理事会・総会報告	3	～和太鼓雑談を添えて～	18
◇私のチャレンジ	12	◇会員の異動	20
◇雲心月性	15	◇編集後記	24

雲心月性

新庄村国民健康保険診療所 大槻剛巳

皆様、初めまして。新庄村の大槻剛巳(おおつき たけみ)です。この記事を読んで頂くのは夏ころかと存じますので、時々刻々と変化していく状況のことはあまり触れないままに、キーを打たせていただきます。ご容赦ください。

さて、この4月1日からこれまでほぼ無縁であった真庭郡新庄村の診療所に赴任してきました。最初ということもあり、自己紹介をさせていただきます。

1956年に丹波の福知山で生まれました。父親は、当地の鉄道病院(福知山には鉄道管理局がありましたので、そこそこの規模だったのかも知れませんが)に内科医師として勤務しておりました。そして、私が5歳の時、西舞鶴の国鉄の診療所に一人内科医師として転勤しました。その5年後、福知山市(父親は満州生まれなのですが、本籍は福知山市内の、山陰本線で駅一つ京都よりの邑ですので、まあ、郷里の様です~父の高校は西舞鶴高校の様で、その詳細は聞いておりませんが)で開業いたしました。それに合わせて、再び福知山に引っ越しました。市立の小学校~中学校でしたが、当時、学生服を購入すると付録に万年筆とか、いろいろ付いていたのですが、その時に、クラシックギターを選択しました。で、同級生の一人と習いに行きました。また、地理クラブで市内の企業や市役所に社会科のインタビューと見学に出向いたりもし、加えて、陸上競技部で100mハードル(今は男子は110mですが)や幅跳びなどをやっており、ちなみに、3年生の時には、京都府大会で2位、一人京都市内にめっちゃ速い奴が居て全然追

いつきませんでした。関西大会に進むはずが、ゴール時点で捻挫をして、その夢は叶いませんでした。ただ、その秋頃、深夜のラジオ放送などを聴きながら勉強していた頃に、京都市の近畿放送というラジオ局で、リスナーからの歌詞を募集、プロデューサーが作曲してパーソナリティーが唄いますってのに、応募したら、それが採用されました。そこから楽曲制作にはまりました。中学の同級生で歌詞を綴る女子が居て、曲をつけたりしていました。またギターはクラシックだけではなく、当時のカレッジフォークの曲などを同級生と文化祭で歌ったりしていました。

高校は…倉敷に転居です。まだ、卒業生も出ていなかった川崎医科大学附属高校に入学しました(高校の3期生、大学は6期生なので、自分の入学で全学年が揃った学年です)。入学早々の5月、当時NHKで「あなたのメロディー」という視聴者のオリジナル楽曲を譜面で投稿すると週に5曲が採択されて、プロのアレンジャー、歌手で紹介されるというのに、上記の彼女の作詞で私の作曲の楽曲が選ばれて、NHKで(寮生活の附属高校で、この録画の二日間だけ欠席でした)収録、日曜午前の番組で放映されました(歌手は「バスストップ」の平浩二さん)。

この頃から、親元を離れているってこともあって楽曲制作やバンドなどに熱中していきました。その甲斐あって、高校3年の秋には、当時ヤマハのポピュラーソング・コンテスト(ポップコン)というアマチュアのオリジナル曲のコンテストがあって、自作自演と譜面応募の二枠があったのです(自作自演からは、中

島みゆきさんや、小坂明子さん、世良公則とツイストさんなどがデビューされました)が、やはり彼女の作詞の楽曲で、譜面の応募だったのですが全国大会にも出場しました(歌手は、ヤマハのヴォーカルスクールでデビューを目指していた庄野真代さんでした)。

そのまま、川崎医科大学に進んで、1年時には再び同じ作詞作曲のコンビで、再びの「あなたのメロディー」(今回は黛ジュンさん)。ポプコンは、その後、決勝大会までは行けなかったのですが、譜面応募あるいは大学時代には軽音楽部のバンドで倉敷の女性3人のヴォーカルグループと一緒に出場し、関西決勝は、ちょっと常連となって、ヤマハの神戸支店などにも名前を知ってもらうようになりました。デビュー前の歌手(石川優子さんとか)のアルバム用や、神戸の女性ロックバンドの楽曲などの制作依頼なども受けたりした大学時代でした(残念ながら採用はされなかったのですが)。

卒業後は内科の研修、そのまま血液内科に入局。大学院も含めて骨髄腫の細胞株の樹立や遺伝子変化の研究をしました(幸い、樹立した細胞株が、結構、現在も国際的に使われています)。ミネソタ大学、NIHでの留学を終え、40歳になる年度で母校に戻ったのですが、そこは衛生学。思いの外、研究も好きだったので、実験を中心に生活できれば良いかなってことでした。ただ、40歳になって学会(例えば日本衛生学会)に参加しても誰一人知らないってのは、結構きつかったですけれど。

そして2009年から、とあるきっかけからネットラジオ(CAMNETというサイトです)を展開することになりました。事前に録音していた音源(トークとミュージック)を編集担当の方(この方が知己で、編集長と呼んで

います)に届けておくと、例えば僕の番組「雲心月性」なら、毎月10~19日にオンエアされます(っていうか、ネットにアクセスしてクリックして流すか、podcastでも展開してます)。QRコード1(図1)にpodcastを紹介しておりますので、お時間がございましたらアクセスしてみてください。ネットラジオなので、著作権のある音源は流せません。ではってことで、当時、過去のオリジナル楽曲を、PCの打ち込みと電子ピアノで弾いた音源をMIDIで音色変換をして、いわゆるカラオケを作って、最後にヴォーカルを入れるということを、当時こういったDTM(desk-top music)に長けていた学生さんがいたので、教えてもらいながら研鑽しました。



図1

その後、ミキシングなどを少しずつ独学に近く学習していったのですが、同じくCAMNETで番組を展開されている方と相談していると、こういったインディーズの音源をサブスク(SpotifyやiTunes/Apple Music、その他YouTube Music、Line Music、Amazon Musicなどもあります)で、リリースして下さるサービスをなさっていて、それに乗っけて下さることになりました。その方の展開されているアーティスト紹介サイトの私のサイトをQRコード2(図2)に紹介しています。お時間があるようでしたら、アクセスしてみてください。最新アルバムは今年の5月末にリリースされました。

本稿のタイトルはネットラジオの番組名を

使わせていただきました。最近の好きな言葉です。そして……真庭地域にもこれまで無縁でしたし、大学時代の後半、衛生学所属の時は研究部門の教室でしたので、かかりつけ医的な一般内科診療についてはもっともっと研鑽を積まねばならないと思っています。真庭市医師会の先生方には、種々の面で、ご指導を頂戴しなければならないですし、また病診連携の中でも、ご無理をお願いすることも生じてくると思っています(すでに、いくつかのお願いもさせてもらっています)。何卒、よろしくお願いいたします。



図 2

追伸：大学にいた頃には、いくつか学会の主催もさせて頂きました。それぞれに顛末記もありますが、この自己紹介を兼ねたコラムでは、2011年度冬の分子予防環境医学研究会と2014年の日本衛生学会のポスターを紹介します。東北地方の某大学の教授には「親バカ」ですねって笑われました。

第11回分子予防環境医学研究会

テーマ：春告鳥の啼く頃には……
—分子予防環境医学の明日を見つめて—

日程：2012(平成24)年1月27日(金)～28日(土)
会場：高敷市民会館2F大会議室
会長：川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳

プログラム

- 1) 特別講演「図形がんに対する遺伝子治療の最新動向」[REIC遺伝子医薬を中心として]
岡山大学 泌尿器科 公文 裕巳 教授
- 2) シンポジウム「DNA損傷への応答メカニズムと疾患」
京都大学 放射線生物研究センター 高田 稔 教授
国立がん研究センター がん生物学研究分野 河野 隆志 分野長
茨城大学 理学部 田内 広 教授
- 3) 一般演題

URL: <http://www.kawasaki.ac.jp/spmpen11/>

会費
高敷市民会館2F大会議室
〒70-0054
高敷市本町1番13
TEL: 086-425-0700
FAX: 086-427-5561
URL: <http://www.scp.or.jp/aff/ahm11/>

事務局
〒701-0982
高敷市広見5丁目
川崎医科大学 衛生学
TEL: 086-452-1111(内線27590)
FAX: 086-454-1125
E-mail: japan11med@kawasaki.ac.jp



予防医学 week in OKAYAMA

第84回 日本衛生学会学術総会



凝視めれば、愛

The IARCWHO Monographs programme: Identifying the causes of cancer as a first step in prevention and cancer control.
Dr. Kari Sakai, M.D., Ph.D., MPH, Head IARC Monographs Unit
International Agency for Research on Cancer, WHO (World Health Organization), Lyon, France

Nanotoxicology
Prof. Mario Di Giacchino
Nanotechnology and Safety Unit, C. of Advanced University Frontiers, Chieti, Italy
ナノテクノロジー教授 村上 勉 (作東)：健康科学を語る

開催期間 5月25日～27日

会場 大槻 剛巳 (川崎医科大学 衛生学 教授)

会場 岡山コンベンションセンター 1館
後援：岡山県、岡山市

開催期間
5月21日～25日

第87回 日本産業衛生学会
5月21日～25日
後援 岡山県 岡山大学

〒700-8501 岡山県岡山市東区
TEL: 086-427-1111 FAX: 086-427-1111
E-mail: info@jshp.or.jp